

ら く が き 【低学年 1 - 3】

- 役割演技を活用した事例 -

- (1) 主題名 勇気をもって〔1 - 3〕
 (2) ねらい 正しいと思うことは、勇気をもって行おうとする態度を養う。
 (3) 資料名 「らくがき」
 (4) 授業の展開例

	学 習 活 動	主 な 発 問 と 児 童 の 心 の 動 き	留 意 点
導 入	1 らくがきの写真を見て話し合う。	この写真を見て、どう思いますか。 ・いやな感じがする。 ・町がよごれるよ。 ・だれがかくのだろう。	橋やトンネル、へいなどにかかっているらくがきの写真を用意し、関心を高める。
展 開	2 資料の前半を聞いて話し合う。	らくがきに誘われたとき、たくやはどんな気持ちになったでしょう。 ・いけないことだ。 ・みんなをとめよう。 ・やらないと、遊んでくれないかも おやつの時にたくやは何を考えていたのでしょう。 ・どうしようか、悪いことをしたな。 ・こっそり消しに行こうか。 ・しかられるだろうな。 ・みんなをさそってちゃんと謝ろう。 ・ゆみ子はいやな気持ちだろうな。	児童の反応を確かめながら、立ち止まり読みをする。 ゆみ子の気持ちも考えさせるようにする。
	3 たくやの気持ちを想像し、役割演技をする。	公園で3人はどんな話合いをしたのでしょう。 ・消しに行こう。 ・勇気を出して謝ろう。 ・そのままにしておこう。	役割演技を通して話合いの内容を考えさせ、たくやたちはどうしたらよいのかを考えさせる。
	4 資料の後半を聞いて話し合う。	たくやは、消えたらくがきを見て、どんなことを思ったのでしょう。 ・らくがきをして悪かったな。 ・消えてよかったな、すっきりしたよ。 ・ごめんね、ゆみちゃん。 ・謝ってよかった。	勇気を出して行動したことに気付かせる。
	5 自分の生活を振り返る。	勇気を出してがんばれたことはありませんか。 ・学校のきまりを守らない人に注意した。	「心のノート」P 20を参考にする。
終 末	6 教師の説話を聞く。	・小さな勇気をいっぱいもちたいな。	勇気を出して行動することの大切さが分かるような話をする。

らくがき

ゆうたくんとけいごくんとたくやくんは、同じクラスです。きょうも、三人いっしょに学校からかえりました。かえり道、同じクラスのゆみ子さんのいえの前をとおりがかりました。ゆみ子さんのいえには、へいがあります。けいごくんが、

「ゆみちゃんのいえのへいに石で絵をかこうや。」

と言いました。

「うん。かこう。」

と、ゆうたくんが言いました。

たくやくんは、だまっていました。

「たくやくんもかけよ。」

と、けいごくんがさそいました。

「そんなこと……。」

と、たくやくんは言いました。しばらくのあいだ、たくやくんはじっとしていましたが、むりやりに白い石をわたされたので、とうとう絵をかいてしまいました。それから、ゆうたくんは、かいた絵のよこに『ゆみ子』と書きました。

家にかえったたくやくんは、らくがきのことであたまの中が重くかんじられました。おやつを食べている時、お母さんが、

「どうしたの、元気がないじゃないの。何かあったの。」

と、しんぱいしてたずねました。

「うん……。」

と、たくやくんは、しばらくかんがえこんでいました。ゆみ子さんのかなしそうな顔がうかんできました。

「お母さん、これからゆうたくんの家に行ってくるよ。」

と言って、たくやくんは家をとびだしました。ゆうたくんは、けいごくんとちかくのこうえんであそんでいました。たくやくんは、

「らくがきをけしに行こうや。人の家のへいにらくがきをするなんて、やっぱりいけないことだよ。」

と、おもいきって二人に言いました。三人はしばらく話し合っていました。

たくやくんたちは、ゆみ子さんの家へ行き、しょうじきにあやまりました。

そして、三人でいっしょうけんめいにへいのらくがきをたわしをつかってけしました。石でかいたらくがきがきえると、たくやくんの心もすっきりしました。

活用に生かすための実践

「らくがき」

1 主題の設定

・この時期の子どもたちは、正や不正について深く考える力はまだ不十分であり、友だちに誘われたりすると、内容を吟味せず同一行動をとることが多い。しかし、学校のきまりや約束を守らないことは、よくないということは実感としてとらえることはできる。正・不正を見極め、不正に対しては勇気をもって指摘し、正しいと思うことは進んで行おうとする態度を養うことが大切である。

2 指導過程の工夫

・導入部分でトンネル等にかかれたらくがきの写真を見せることで、子どもたちの資料への関心を高めたい。

・3人が公園で話し合う場面では、役割演技を取り入れ、どのような話し合いをしたのかをグループで考えさせ、自分たちのしたことに対してどのように責任をとったらいのかを明らかにしていきたい。

・終末に「心のノート」も活用し、みんなで話し合い、考えを深めることを通して、「なぜよいのか」「なぜいけないのか」を明らかにし、勇気ある行いをしていこうとする力を高めていきたい。

3 発問の工夫

・発問においては、主人公のたくやの心情を問うことが中心になるが、ねらいが「態度を養う」ことなので、中心発問を「3人はどんな話し合いをしたのでしょうか」にし、役割演技を取り入れながら、これからどうすればよいのかを考えさせたい。

4 児童の反応

・らくがきをしたのは、本当に悪いと思いました。

・らくがきをしたのは悪かったけど、あとから勇気を出して消しに行ったのがいいと思いました。

・勇気を出して「ごめんなさい」と謝ったのがいいと思いました。

・劇をしたとき、3人がけんかになってしまったけど、最後には仲直りをして謝りにいったのがよかったです。

・班で劇をやったのが、おもしろかったです。ゆうたくんの気持ちが分かった。

・3人の勇気がすごかった。謝るのもらくがきを消すのも勇気があるんだと思いました。

5 実践者からの一言

・子どもたちは、らくがきをすることはよくないことだと捉えることができていた。

・役割演技の中で、責任のなすりあいをしている子どもたちや、「このままだまっていよう」という意見の子どもたちもいたが、授業後の感想では、ほとんどの子が、勇気をもって謝ってよかったと主人公に共感していた。

・「心のノート」(P20, 21)を拡大コピーし、展開の後半で活用しようとしたが、時間的に十分話し合うことができなかった。指導後、学級に掲示し、日々の指導の中で活用した。

・終末で「勇気100%」の歌をうたったが効果的であった。

(三原小学校 石井純子)